

ここが好き！誰もが感じる『まち』になる！ 川島町政策研究PJ

経済学部 経済学科
勝浦ゼミナールⅠ・Ⅱ

1.川島町政策研究PJとは

私たち勝浦ゼミでは、川島町における人口減少から公共施設の維持管理にあたる財源の減少といった問題に目を向け、川島町役場の政策研究に町職員、かわじま☆未来塾、TJUP会員学生、公募町民に並び城西大学勝浦ゼミチームとして参加しました。政策研究のゴールとして、第6次川島町総合振興計画における「行政系地域」を中心としたまちづくりを考え、「ここが好き、やっぱり好き」と誰もが思うような町を創造するとしました。川島町政策研究PJの期間として、2021年6月から12月の長期に渡り活動をしました。

2.スケジュール



2.町の魅力と課題の発見～トレジャーハント～

初めに「かわじま」にある魅力であったり今後の課題点を、実際に川島町に赴き探す“トレジャーハント”を行いました。トレジャーハントでは川島町の現地調査だけでなく、勝浦ゼミ生の学年を越えた交流や個人個人の調査による自主性も鍛える機会となりました。実際に行った中で、移動の大変さといった課題点や広大な田んぼ、町の中心にある大きな公園などの魅力を見るけることが出来ました。今回のトレジャーハンを通じて感じた事を政策研究に生かすべく、各々の見つけた「お宝や気づき」を町役場の方も含め報告会として共有しました。



トレジャーハントと現地調査



トレジャーハント報告会

3.政策研究①

次の中間報告会に向けて、「行政系地域」を中心とした町の在り方というのを考えました。私たちがこの政策研究の中でコンセプトとしたのが「ここが好き！やっぱり好き！」です。これは川島町総合振興計画でもあり、町民の人が誇りと思うような町の創出と外からの人口の流入をゴールとして政策研究を進めました。

・現状の整理

人口の減少→施設管理また改修の財源減少
川島町内での移動方法またアクセス
トレジャーハントで見つけた川島の魅力

川島町において人口の減少からなる施設の管理方針が大きな問題であるため、私達はざっくりと施設の改修と合併案を考えると共に、他県からの観光客や人口の流入といった持続的な地域発展についても考えました。その中の案として、コストコの設置やアウトドアスポーツ施設などが出ました。ただ突拍子の案を出すだけでなく、設置要件であったり、望まれる効果であったりと慎重に考えることに注意をしました。



地域連携活動発表会

2022

4.中間報告発表会

11月に川島町役場で役場の方々や町民の方に向けての中間報告会に参加しました。報告会では勝浦ゼミチームの他に3つのチームが参加し、他大学の学生の発表を聞きお互いに学ぶだけでなく、交流する機会にもなりました。中間報告会を通して、最終報告会に向けた研究内容の改善点や深掘りの課題を実感することが出来ました。



中間報告会の様子

5.政策研究②

中間報告会で具体的でなかった内容を中心に最終報告会に向けて政策研究を進めました。改めて川島町の未来を考えた上で、町民のシビックプライドを大切に新たな財源の創出の案を膨らませました。そこで、「行政系地域」の活用案を再度見直し、行政系地域に集めるべき役割を4つとしました。

1「地元の誇り」

これは町の活性化に必要な要素であり永住する人を増やす効果が現れます。

例) 公民館と学校、役場などの複合施設

2「便利・活性化」

地元の誇りにつながる便利や活性化といった要素は中小企業の新規参入につながります。

例) 上記の複合施設

3「集客・賑わい」

行政系地域を中心としたまちづくりのため、集客による認知と土地の貸し出しによる財源の確保につなげます。

例) コストコ、温泉、平成の森公園リニューアル、アウトドア施設、スケボー公園

4「定住・移住」

定住したい、移住したいと思うものには便利か誇りに思えるものがあるかにつながる。

上記に書かれた役割は一つ一つが「ここが好き、やっぱり好き」につながるため、行政系地域には全ての要素が含まれるべきだと思いました。

6.最終報告発表会

12月に町民や役場の職員だけでなく議員の方々に対して、これまでの政策研究の最終発表をしました。第6次川島町総合振興計画をもとに考えた政策に加え、実際にこの6ヶ月で見た川島の魅力を活用したまちづくりを学生目線で考え提案することが出来ました。また、1ヶ月前よりもさらに深掘りされた他グループの発表から、多くの事を学ばさせていただく機会ともなりました。

最終報告発表会の後には、他グループとの交流会が開かれミニゲームなどを通して交流もはかりました。



最終報告発表会



交流会

7.成果

